

今日、世界を揺さぶる五つの歴史的分断がある。うち二つの分断は既に火を噴いた。ロシアはウクライナに侵攻し、いまだ戦争終結の兆しはない。イスラエルとパレスチナの衝突はハマスのテロが引き金となり、イスラエルのガザに対する阿鼻(あび)責なき攻撃と人道上の惨禍をもたらした。これも問題解決の展望がない。

この二つの分断は唐突に始まったわけではない。1990年代初めのソ連邦解体でロシアは東欧諸国やバルト諸国等を失い、ソ連邦の崩壊を「20世紀最大の悲劇」と捉えるプーチン大統領はウクライナが西側に編入されていくことを阻止したいと考えたのだらう。イスラエルのネタニヤフ首相や右派勢力はガザを実効支配するハマスを壊滅させることなく戦争を終わらせようとしなない。

この二つの戦争を止めることができないのは、これまで強い抑止力をもってきた米国の指導力が減退しているからだ。米国は依然圧倒的な軍事力を有する唯一の超大国であるが、20年

日本総合研究所国際戦略
研究所特別顧問

田中 均



山陽時評

たなか・ひとし 京都市生まれ。京都大学法学部卒業後、外務省入省。経済局長、アジア大洋州局長などを経て2002年から政務担当外務審議官。退官後の10年から日本総合研究所国際戦略研究所理事長、22年12月から現職。日本国際交流センターのシニア・フェローを兼務。著書に「日本外交の挑戦」「見えない戦争」など。

米大統領選の行く末

が、人道的災禍をもたらす攻撃の停止を求められても、米国のイラク攻撃と同じだ、とばかり、停戦に応じようとしていない。

さらに、他の二つの国際的分断は東アジアに存在し、これらが火を噴くのを止めることができるかどうかは、日本にも致命的な影響をもたらす。一つは朝鮮半島の南北対立であり、一つは中国と台湾

の被害は圧倒的に深刻だ。米韓日の強い連携により抑止力は維持されようが、米国、韓国、日本の国内政治の変化の中で北朝鮮が冒險主義に走らない保証はない。

台湾有事の可能性も懸念される。台湾総統選挙で民主進党の賴清徳候補が勝利したが、蔡英文総統の時代に引き続き中国との関係は事あるごとに緊張していくだろう。習近平国家主席は「中国の夢」を語り、中華人民

一層の混迷 世界襲う恐れ

このような四つの分断の行方を左右するのは五つ目の分断だ。すなわち、米国の国内的分断の行く末だ。今年11月の大統領選挙ではバイデン大統領ートランプ前大統領の選挙戦となることが予想される。バイデン大統領が勝利したとしても米国の一層の内向き傾向は進むだろう。トランプ前大統領が復帰する場合には、第1期よりもトランプ的傾向は強くなるだろうし、アメリカ第一を掲げる対外政策も変わることはないのだろう。

にわたる中東での戦争での多数の死者と財政的負担が結果をもたらさなかったことへの疲弊感は大きく、戦争を賭する能力はあっても意思は衰え、抑止力は後退した。

プーチン大統領は米国が戦争をする意思がないとみて兵を進めたわけで、NATO（北大西洋条約機構）が直接介入することはないと判断するが故に停戦に応じようとはしない。イスラエルは米国の同盟国であるが、人道的災禍をもたらす攻撃の停止を求められても、米国のイラク攻撃と同じだ、とばかり、停戦に応じようとしていない。

さらに、他の二つの国際的分断は東アジアに存在し、これらが火を噴くのを止めることができるかどうかは、日本にも致命的な影響をもたらす。一つは朝鮮半島の南北対立であり、一つは中国と台湾の被害は圧倒的に深刻だ。米韓日の強い連携により抑止力は維持されようが、米国、韓国、日本の国内政治の変化の中で北朝鮮が冒險主義に走らない保証はない。

台湾有事の可能性も懸念される。台湾総統選挙で民主進党の賴清徳候補が勝利したが、蔡英文総統の時代に引き続き中国との関係は事あるごとに緊張していくだろう。習近平国家主席は「中国の夢」を語り、中華人民